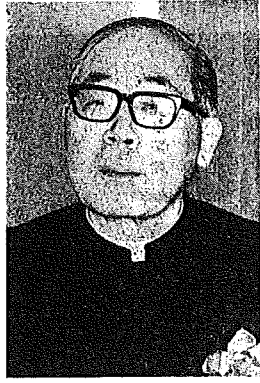


「だが、キリストの愛から私たちを離れさせ得よう。患難か、苦しみか、迫害か、飢か、裸か、危険か、剣か、」と言ひ、「すべてこれらのことに遭つても、私たちが愛して下さつたお方によって、私たちは勝つてなお余りがある」と聖パウロは言っています。

「卒業の皆さん。皆さんも、この聖パウロに倣つて、人生の勝利者となつて頂きたいのです。大学を卒業されてからも、在学中身につけられた知性的生活を継続発展され、常に前途への輝かしい希望のうちに生き、社会と家庭において、自分に与えられた使命を全うするよう、全力をあげて人生を生き抜いて頂きたいのです。」

立身出世が人生の幸福ではありません。人生の幸福とは現実を深く認

本学創立者 田口枢機卿帰天



本学創立者、初代学長田口芳五郎枢機卿は去る二月二十三日、午後一時四十五分、かねてより入院中であつた大阪大学医学部附属病院で腎不全のため帰天した。七十五歳。

枢機卿逝去の報が本学にもたらされたのは、たまたま教授会が開かれ

識し、真実に生きることしかありません。これは知性的生活—英知によつてもたらされるものなのです。

皆さんがこれから、社会において、知性的生活の実践者となり、「英知こそこの世の光なれ」という英知大学歌のように「世の光」となれるよう希望いたします。皆さんの母校アルマ・マテル、英知大学はいつまでも皆さんを養ひ育てる母たる存在であり続けることでしょう。終わりに皆さんのきょうの社会への輝かしい出発にあたり、皆さんのご健康と幸せを願ひ、全能なる神の御祝福を祈りながら以上をもって式辞といたします。

(昭和五十三年三月二十日)

ていた最中であつたが、教授会が終わるや否や、岸学長がそれを教授一同に報告すると、一瞬、重苦しい沈黙がみられた。まさに巨星墮つ。本学にとっては最大の功労者であり、恩人である同卿には本学はもとより各界から哀惜が寄せられている。

田口枢機卿は昭和三十七年四月、英知短期大学を創立、続いて翌三十八年四月、神学部神学科として英知大学を創立することによつて、こんにちの本学の基礎を築いた。同卿は創立に先立つ十数年、すでに数多くの現職教授をひろく欧米諸国に派遣し、各分野にわたる研究に専念させて本学創立の準備にあつた。二月葬儀ミサ、および告別式は、二月

卒業記念品母校に寄贈

- 一 昭和五十二年卒業生より
- 一 ローク立一祭服 一 神学部
- 一、テント二張 英文学科
- 一、時計一個 イスパニア文学科
- 一、鏡一面 フランス文学科

人事 三月三十一日付

退職

外国語科目

講師 マリヨ・クリオーネ

二十七日午後零時二十分、玉造のカテドラルにおいて、十四名の司教、教区内外の司祭約二百名による共同式式に加えて、三千人におよぶ一般参列者が見守る中で延々三時間近くにわたり、しめやかにとり行われた。主司式者は、本学理事長の安田久雄司教、そのかたわらに教皇大使マリオ・ピオ・ガスバリ大司教が立たれる。安田司教は、故枢機卿が、信仰、学識両面においてすぐれた司教であつたこと、また実践、行動の人としてパウロのように活躍した功労者であり羊のために生命を捧げるよき牧者であつた、と故人の遺徳をたたえて説教した。弔電はローマ教皇パウロ六世をはじめ各界の代表より数多くよせられた。

昭和五十二年の就職状況

昭和五十二年(昭和五十三年三月の卒業生)の卒業生にとつて、経済不況のもと、就職難であつたことは確かであるが、三月末日迄の結果では、大体、良好な就職状況であつた。

本年度からは、さらに就職状況を向上させる目的で、就職委員会が結成された。そのメンバーは、英文学科に谷、井勢、の両先生、西文学科に戸田先生、仏文学科に前田先生、である。各先生方は、就職課と共に各会社を訪問、求人の開拓にあたられる。

四年生への就職課からの希望としては、四月より始まるガイダンスに必ず出席して、就職状況をよく把握するように努められた。

昨年の就職状況は、次の通りである。

規模別求人状況

昭和53年3月末現在

	男	女
10億以上	6 %	12 %
3億以上	11 %	10 %
1億以上	25 %	19 %
3,000万以上	35 %	28 %
1,000万以上	17 %	23 %
1,000万未満	6 %	8 %

学科別就職状況

昭和53年3月末現在

	神 学 科			英 文 科			西 文 科			仏 文 科			全 科		
	希望者	決定者	就職率	希望者	決定者	就職率	希望者	決定者	就職率	希望者	決定者	就職率	希望者	決定者	就職率
男	—	—	—	42名	38名	90%	29名	26名	90%	11名	8名	73%	82名	72名	88%
女	1名	1名	100%	34名	31名	91%	7名	5名	71%	10名	9名	90%	52名	46名	88%
計	1名	1名	100%	76名	69名	91%	36名	31名	86%	21名	17名	81%	134名	118名	88%

主な就職先

東亜紡織、東亜興発、千代田火災海上保険、オリエント・リース、キヤセイ・パンフィック航空、大韓航空、北越工業、大日本インキ化学工業、ナミレイ、ダスキン、ダイエー、外食事業本部、英雄海運、アシックス、第一電工、大洋ホーム、三松、丸大食品、三星堂、木下商事、マルショウ、大阪トヨペット、神戸トヨペット、シンエーフーズ、真生印刷、大阪音楽出版、他。

昭和五十二年度

成績優秀者・功労者

英文学科

英文学科賞

中村 好美
門岡 豊子

須原 玲子

中西 真也

清木 篤子

東城のり子

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

永遠のもとに

―創立記念ミサにおける岸学長のことば―

昭和五十二年度英知大学創立記念式典は、去る十一月一日、午前十時より、体育館におけるミサ聖祭をもって始められた。

この日は諸聖人の祝日にもあたることから、岸学長は、ミサのなかでこの日に本学の創立記念を祝う意味について次のように語った。

人はややもすれば、この世という視点のもとにものを見る。いかなる人も死後の世界を知ることができないし、自然科学もそれについてはひとつの解答を出してくれない。とこ

後援会主催

第三回親睦記念パーティー開く

十一月一日、絶好の秋日和に恵まれ、諸聖人の祝日の意義深い佳き日に、学院創立十五周年記念日を迎えて、午前十時より、大学主催の記念式典が始まり、岸学長司式により、記念ミサが捧げられ、ついで本学教授カタリナ・ライマン先生が、スライド映画を利用して、「英国におけるヨーロッパ文化繁栄の流れ」について懇切丁寧に講演され多大の感銘を与えて、記念式典を終る。

正午より後援会主催の「第三回親睦記念パーティー」を開く。このパーティーは、会員相互の親睦を深めるとともに、先生と会員とがうちとけて話しあい親密さを増し、大学を理解するよいチャンスでありますから、ぜひ開くようにと会員から強い要望があつて開催する運びとなつた次第

るが、この地上の過ぎゆく時間だけがすてではない。私たちは死をこえて、永遠の次元において人生を歩んでいるのである。それについては宗教のみが私たちに道案内をしてくれる。私たちは永遠のもとに人生を見直し、人間の完成という課題を果してゆかなければならない。

本日ここに読みあげられたマタイの福音書におけるキリストの山上の垂訓は、人間の真の幸福がこの世の次元を越えたところにあることを説いている。心の潔い人、悲しむことのできる人がしあわせな人であると教えられている。ここに人生の意味を学ぼう。本学における建学の精神もここにあるのだ。

です。こうした趣旨から生れた会でありましただけに、会員七十六名という多数が参加、先生三十七名のご出席を得て、百十余名が一堂に会し盛大なパーティーとなる。

やがて田中副会長の「開会のことば」に始まり、ついで福田会長より創立十五周年を迎えたお祝いの言葉があり、多数の会員がご参加下さつたことをよるこび、平素後援会に對してご援助ご協力をいただいていることに衷心より感謝せられる。このパーティーは会員相互の親睦をより一層深めるとともに、諸先生と私たちとが話しあう最もよい機会でありますから、うちとけて十分ご懇談下さいませようおねがいいたしますと、申されてあいさつを終る。

ついで、岸学長より、本日はご多用の折柄にもかかわらず、このように多数のご父兄のご来学を願ひありがとうございます。なお後援会からは、毎年ご援助を賜り、まことにありがとうございます。おかげをもちまして、学院チャペル並に図書館も立派に出来上り、学生は新しい図書館で精魂を打ちこんで勉学に励んでおります。只今は研究棟の工事も着々と進み、来春には竣工の予定でございます。なお教室棟には本格的な暖房設備も終了したので、今年の冬は暖い教室で勉学にいらしていただくことができます。さて大学は常々申しておりますように、教授と学生が、相互の理解と信頼、尊敬と協調を通して共に真理の追求を深めるとともに、真実の人間形成のために努力しております。と力強く結ばれます。



次に福田会長によって、英知大学の創立記念日を祝し、併せて、大学並に後援会の発展を祈念して乾杯を行い会食に移る。なごやかな雰囲気の中、にぎやかに懇談が続く。そのころに、先生も会員も交えて、自己紹介が始まる。各自が感想や意見を活発に述べられ、うなずいたり、笑ったりで楽しいムードが漂う。中にも真剣さがこもっていました。その中の二、三を拾いあげてみます

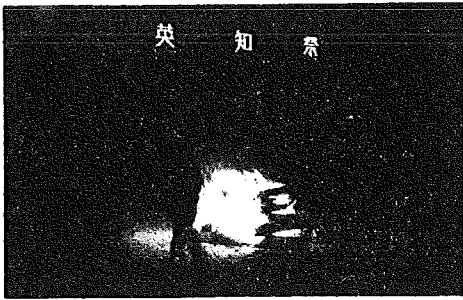
と、会員の感想では、授業料は納めておりますが、大学がどこにあるのかも知らなかった私が、今日はいじめて伺つてみて、こんな立派なよい先生方がいられる。こんなよい大学で、子供がお世話になっているのを初めて知り、嬉しくなりません。これから安心しておくり出すことができますとか、この大学にお世話になつてから勉強をよくするようになつたとか、子供が大へんすなおになつてよるこんでいるとか。親ともよく話をするようになったとか。家事の手伝いもよくするようになつたとか、また福田会長からも、宗教的なこのカトリック大学で、子供の教育をしていただくことは非常によかつたと思つております。など様々な感想が続出。諸先生からは、私はきびしく教えています、この方針は貫き通す考ですと発表されるや、大きな拍手がわき起り、親たちはそれを望んでいられるかのように感ぜられ、また、この大学の学生はすなおでおとなしいよい学生ばかりですが、今少し積極的に勉強してほしいといわれれば親たちは大いにうなずいていられる様子がうかがわれ、わたしはやさしく丁寧に教えていますとか、どんな問題でも相談に来なさいという、様々な相談に來ます。その中に異性の問題もあり、家庭事情の問題もあり、種々様々な悩みをもつて相談に來る有様です。その他の先生方のお話しは、大部分が、ご自分の担当しておられる学科についての「教え方」を詳しくわかりやすく説明されましたので、親達にはよい参考になつたことと思ひます。かくして、和気あいあいのうちに時も過ぎ、やがて学生達の演ずる「イスパニア語劇」の方へと急がれ、会を閉じることとする。

(文責石田書記)

庶民の庭にバラの花が

ライマン教授の記念講演

昭和五十二年度本学創立記念式典は、昨年十一月一日、午前十時より講堂において挙行された。岸学長司式による記念ミサにひきつづいて「英国におけるヨーロッパ文化繁栄の流れ」と題する記念講演が、カタリナ・ライマン教授によってなされた。ライマン教授は昨年夏、本学学生有志数名を伴ってヨーロッパを訪れ、英国にもたち寄っておられる。この度の講演は英国視察時に撮られたスライドを用いてのおみやげ話ではあるが、その解説のひとつひとつには教授の豊かな教養がにじみ出ており、聴衆に深い感銘を与えた。



英知祭

力を帯びていることを指摘される。これはこの国がヨーロッパの人々がこんなに当面する現実の中で失つて

第14回英知祭行われる

しまったものを依然として保持しているからである。イギリス人は誰でも庭を大切にす。どのような庶民の庭先にも白赤のバラが咲いているのがすこぶる魅力的である。英国はまた二千五百年におよぶ文化の歴史を有している。ライマン教授はイギリスの文化史を概観され、ローマ、キリスト教、寺院、大学、宗教改革などもつ、それぞれの文化史的意義を指摘。お風呂の好きなローマ人が紀元四十三年に渡来、四百年間英国に踏みとどまったために都市に浴場の設備が奔達したことなどをユーモアあふれる解説をほどこされる。

さらに四四九年にはアングルスが英国西部に侵入、これに続いてサクソンズやジュートなどが英国の諸地方に侵入。くだって一〇六六年にはノルマン人がイギリスに侵入して王位を横領。結局のところ英国人とは数回におよぶ大陸諸民族の侵入を受けてきた混血体である。また、キリスト教が英国に及ぼした影響はすこぶる大きい。聖オーガスタスが五九七年ローマから四十人の修道士をつれて渡来している。これらの修道士の中には建築の専門家も少なくなかったせいか、彼らの手によって堂々とした寺院が建立され、こんにちまでその姿をとどめているものが少なくない。

十月三十一日、十一月一、二、三日「Active Generation」躍動する世代」という統一テーマのもとに第十四回英知祭が開催された。これらの四日間、恒例の田吾作大行進をはじめ、パイプオルガンコンサート、ソフトボール大会、サキソフォーンコンサート、講演、のど自慢大会、ダンスパーティー、ファイアーストーム、各クラブの発表など多彩な催物がくりひろげられた。またフィリングカップル5V5やミス英知ラブ・アタックというテレビゲームのつとつたものも登場、人気を集めた。

いつもは静かなキャンパスも、このときばかりは「躍動する世代」の熱気でムンムンしたにぎやかな模擬店街に変身。期間中、真夜中に正門の上に掲げてあったアーチが吹き飛ばされるというハプニングもあったが、盛会のうちに幕を閉じた。



大行進 田吾作 名物 誰だかわかるか

英知無念ノ一第十一回英南戦

昨年、十二月三、四日名古屋の南山大学において英南戦が行われた。英南戦は同じカトリックの建学精神を持つ南山大学と本学がスポーツを通じて親睦を深めるために昭和四十一年から始めたもので今回で十一年目になる。回を重ねる毎に参加者の試合への意欲も高まり、体育系クラブにとっては年間を通じて最も重要な行事の一つとなっている。今回の英南戦は「暖冬」といわれるなか、晴天に恵まれ、出場したアーチェリー、軟庭、硬庭、バドミントン、卓球、サッカーの各選手たち



熱戦中のサッカー部イレブン

戦を見てきたが年々選手達の熱意も深まり、より良い英南戦をめざして努力を重ねているようだ。ただせっかくの両校の交歓も体育系クラブのみに限られ残念です。もつと一般学生の観戦や応援があれば。」と実情に対する不満をチョッピリ。英南戦を一そう充実した大規模なものにするためにも一般学生の参加と協力を呼びかける。今年こそ我々の手で力栄冠をかちとろう！フレール！英知！

研究室便り

○玉谷直実助教(心理学)は「声」二月号に「母からの自立」というテーマで論文を発表した。母親からの自立は大人になるために誰しもが経なければならない一つのインシエーションである。この論文は「受洗」という神との出会いを通して「自立」を成し献げた著者自身の経験の回想である。また「世紀」二月号「心のゆとり(特集)」に「主体性はどこに」職業と家庭の両立」というテーマで論文を執筆した。

英知通信

昭和五十三年三月三十日発行
編集 英知大学
発行 学長広報室
兵庫県尼崎市若王寺苗田
電話(06)四九一―五〇八三
六六一